

西光寺だより

第十五号 平成二十三年十一月一日発行

十一月に入り、いつそう秋も深まってまいりました。

関西では紅葉が楽しめるこの時期は、紅葉狩りに出向く人々で賑わいます。一説によると、日本最古の詩集「万葉集」のなかで、すでに紅葉の美しさを愛でる多くの歌が詠まれており、少なくとも千二百年前には紅葉狩りが行われていたといわれています。これもまた、日本人の豊かな心が生み出した文化のひとつでしょうね。

赤や黄色に色づいた木々や山々の姿は、寒い冬を前に美しく化粧を施し、一年の中でもっともあでやかに着飾った姿を見せてくれているようにも感じます。本当に四季を彩るにふさわしい、見とれるような美しさです。

そして、十二月にもなるとその葉を落とし、やがて雪の多い地方などでは真っ白な雪化粧をした姿を見せてくれるのでしょうか。

そんな四季のうつろいは人間の一生に似ているように感じませんか。芽吹き、春、葉繁る夏、色づく秋、そして枯木の冬・・・すべては移り行き、日々は過ぎ去っていきます。なにひとつとどまることのない無常の世界でわたくしたちは生きています。その真実をけつして忘れないでください。

それでも今日ここに生かされているわたくしたちは、美しい紅葉を見るのが出来るということ。色づいた葉一枚でさえも愛おしく感じます。今日ある「いのち」に感謝いたしましょう。



◆十一月・十二月・一月の行事◆

十一月二十三日（祝・水）

報恩講法要

午後二時 奉讃大師作法

午後七時 宗祖讃仰作法

西光寺本堂

十二月三十一日（土）

除夜会

一月一日（日）

元旦会法要

●今月のことば●

「万葉集 第十九巻」

言こととはぬ木すら 春咲き秋づけば、

もみち散らくは 常なを無みこそ

意味

物言ことねぬ木でさえ、春には花を咲かせ、秋には紅葉して葉を散らせるのは、
変わらないものは何一つ無いからなのでしょう。

◆先月の報告◆

秋季永代経法要

十月十六日に西光寺本堂にて秋季永代経法要が厳修されました。午後二時から阿弥陀経をお勤めし、午後七時から正信偈をお勤め致しました。それぞれ先に亡くなられた方々の命に心を寄せ、仏恩報謝のお念仏に励み、聞法の機会を得る法要を皆様でお勤めできた事、大変良いご縁を頂きました。

また、この度お越し頂きました御講師の和氣さんにも感謝致します。日頃なかなか聞けない阿弥陀経や正信偈のお経の意味を始め、どんなに暗くても阿弥陀様の光のお導きがあるからこそ、前に進むことが出来るお話など、非常に分かりやすいお説法をしていただきました。聴聞されたご門徒の皆様からも良いお話だったとのお声をいただいております。ありがとうございます。



大谷本願墓参

十月五日に大谷本願へお墓参り致しました。あいにくの天気でしたが、雨の中の墓参も良いものでした。なかなか雨の中墓参に行く機会は少ないかと思いますが、「いまこういう姿で元気でやっているよ」と墓前に報告ができ、すがすがしい気持ちになることが出来ました。お疲れさまでした。

～西光寺みのり講について～

昭和四十四年五月一基三十七万円の納骨堂（無量寿堂）を四十一人を出し合い購入。その団体をみのり講と名づけ、それ以来、毎年一年に一回みのり講として大谷本願への墓参をしてきました。

第一回は昭和四十四年五月十五日にお参りました。今回の墓参で四十三回目となります。最初は四十一人で始まりましたが、転居された方などで、今は三十六人でみのり講を運営しています。

◎あしがき◎

十一月二十三日の西光寺報恩講は、宗祖親鸞聖人のご命日にあたってその恩徳を報謝する法要で、浄土真宗最大の行事です。

茨木東組のご住職方が西光寺に参集し、華やかな衣を付けて法要をさせていただきます。本堂内の荘厳も最も重い形式となります。また、御講師の方から御法話もいただきます。どうぞ皆様参詣ください。

合 掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一一

電話 〇七二一六二一四七九四

FAX 〇七二一六二一九二九二

<http://www.osaka-saikouji.net/>